



Title	HIV/AIDS啓発活動への取組み
Author(s)	岡本, あやみ; 田中, 香奈子; 菅原, 順子 他
Citation	大阪公衆衛生. 2009, 80, p. 25-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83423
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

考える。

(本研究は第 22 回日本エイズ学会学術集会にて報告した。)

参考文献

- 1) 小西加保留：HIV 感染症による長期療養者とその受け入れ体制に関する研究．日本エイズ学会誌 9：167－172,2007
- 2) 白井千香：HIV/AIDS 診療における地域連携の体制づくりと課題．第 55 巻日本公衆衛生誌第 3 号 156－162,2008
- 3) 加瀬田暢子：HIV 陽性者の訪問看護受け入れに関わる要因 第 19 回日本エイズ学会学

術集会総会抄録集：2005

- 4) 永井英明：長期療養が必要な HIV 感染者の施設・病院での受け入れについての検討 第 20 回日本エイズ学会学術集会総会抄録集,2006

トピックス HIV/AIDS

HIV/AIDS 啓発活動への取り組み

吹田保健所

岡本あやみ 田中香奈子 菅原順子 木村ウメ子
清水洋子 津呂千恵子 西内一徳 峯川章子
高野正子

1. はじめに

大阪府保健所では HIV 検査相談・啓発事業・陽性者への支援の 3 本柱で事業を進めており、今回は、吹田保健所の啓発事業の取り組みとして (1) 関西大学での HIV/AIDS キャンペーン

(2) 学校教育支援について報告する。

2. HIV/AIDS 啓発活動への取り組み

(1) 関西大学での HIV/AIDS 啓発活動

経 過

[きっかけ]

平成 12 年に、吹田保健所から、以前より結核接触者健診等で連携のあった関西大学の保健管理センターに対して、「大学生を対象とした HIV 啓発と禁煙啓発とを開催したい」と働きかけた。その結果、保健管理センターの協力を得ることが出来、大学生を対象に世界エイズデーに合わせて、「HIV/AIDS 啓発キャンペーン」を保健所と大学の共催という形で開催した。当初、保健所は企画調整課と地域保健課の合

同で参加し、禁煙啓発も同時に実施した。この企画は、平成 16 年度まで継続して実施できた。

[学生の参加]

平成 15 年度には、大学の保健管理センターから学生に呼びかけを行い、学生ボランティアの協力が得られるようになった。大学の学生課も共催機関に加わり、キャンペーンを学園祭と同時に開催した。それまでの保健所事業という雰囲気から、大学も共同し、啓発事業に取り組む形になった。平成 16 年度は、学生ボランティア対象に事前に保健所からオリエンテーションを実施し、キャンペーンの意義や目的、実際のプログラム内容を理解してもらい、スタッフとともに進行に携わってもらった。

[学生の運営開始]

平成 17 年度に学内の学生生活課にボランティアセンターが設置されたのを機会に、保健所から HIV/AIDS 啓発ボランティアを募集したところ、「Colors」というサークルが趣旨に賛同し参加す

るようになった。このサークルメンバーに、ピア・リーダーとして積極的に参加してもらう意図で、事前に、保健所から HIV/AIDS 啓発教育を実施し、その後も情報提供やメール連絡を密に実施した。平成 17 年度はこのメンバーが中心となり、学園祭の場で、主体的に HIV/AIDS キャンペーンを運営し、保健所は「Colors」を支援するという役割に徹した。

平成 18 年度は、同じサークルメンバーが引き続き、学園祭とは別の日時に HIV/AIDS 単独のキャンペーンを企画し、学生が主体的に運営した。サークルとして当日の臨時スタッフを募集し、12 名が集まった。サークルメンバーは 2 年目ということもあり、保健所からの啓発教育や情報提供等を通じて、意識や意欲も高まり、「HIV 人権情報センター」や「MASH 大阪」へ出かけ、主体的に情報収集や協力を得て、企画を充実し実施した。

さらに、保健所が後援していた地域での HIV/AIDS の啓発映画上映会時にもサークルは協力し、HIV/AIDS 啓発ブースを設置するなど保健所と共催で実施した。この活動は学生にとって地域の方々の反応を肌で感じる機会となり、今後とも地域での活動をしたいと積極的な声があった。

[ピア・リーダーとしての活動の場の広がり]

平成 19 年度は、大学側が、サークルメンバーに、春に HIV/AIDS キャンペーン実施の要請をし、昨年の主要メンバーは卒業していたが、後輩が引継ぎ、昨年と同じような形で実施し、6 月(1日間のみ)と 12 月に 2 回実施した。毎回約 300 人の参加があった。

また、学内キャンペーン開催だけでなく、管内中学校での HIV/AIDS 授業で、自分たちの活動について報告する機会を設定できた。中学校で、まず保健師が HIV/AIDS 教育し、その後、サークルメンバー 3 人が、活動を通じて感じていることや中学生へのメッセージなど、中学生を対象に発表

を行った。中学生は、少し先輩の大学生から生の声で HIV/AIDS ボランティアに携わってきた経過や想いを聞けて身近な問題に感じたようであった。学生ボランティアは初めての体験だったが、『直接、反応が見えてやりがいのある活動と感じた』とのことだった。

[キャンペーンの活動内容]

表1のとおりである。

[まとめ]

学生ボランティア達はいろいろなものへ関心が高く、やりたいことが数多い中で HIV/AIDS キャンペーン活動は毎年引きついでいる。この取り組みを通じて『ボランティアとして参加することで HIV/AIDS について学ぶ機会になった。このような機会があればまた参加したい』などボランティア自身も HIV/AIDS について学び、意識や行動が変化していくのが感じられる。学生のピア活動は、学生時代だけの活動で終わることが多く、その学生が卒業すると途切れることがある。また、メンバー内の個人の意思・意欲に影響されることが多い。無理なく継続できるような支援が大切である。保健所として配慮したことは以下の3点である。

①大学の HIV 啓発担当保健師を 2 人にし、学生に合わせて密な連絡調整を行う。

②キャンペーンの事前啓発教育の実施や情報提供を通じて、学生が無理なくできるように配慮、啓発方法の工夫などの助言をする。

③キャンペーン後反省会で評価、次回に向けての意思統一を図る。

(2) 管内高校へのはたらきかけ

[経 過]

吹田保健所においては、ここ数年、同じ高校

表1 キャンペーンの活動内容

	内 容	ボランティアの役割	保健所の役割
事前準備	○打ち合わせ（キャンペーンの方針、内容、予定を立て、お互いの役割を確認する） ○メンバー内での連絡会議 ○キャンペーンのビジュアル	・具体的な内容の決定。 ・テーマやキャッチフレーズ、内容に関する提案 ・情報収集 ・メンバー内の役割分担 ・当日スタッフの募集	・ HIV/AIDS健康教育や最新情報の提供を通じてメンバーの知識や意識を深める。 ・ キャンペーン内容方法に関する助言、啓発物品の提供や貸し出し
当日	○準備：ビラ配布して人集め ○キャンペーン実施 スタンブラリー：AIDSクイズ・コンドームワーク・レッドリボン作成・メッセージ作成 ビデオ上映 展 示：パネル・デザインコンドーム・メッセージキルト	・場所の設定 ・メンバー約 20 名で各コーナーを分担し、実施していく	・当日の運営の支援・応援
事後	○ 反省会	・感想等の集約	・継続への助言

から HIV/AIDS 教育の講師依頼があるのみで、それも講演会の単発開催であり、学校内での継続性がみられなかった。また、HIV/AIDS 授業に関する相談等も少なく、学校現場との連携は出来ていない状況であった。

そこで、吹田保健所では、管内高校での HIV/AIDS 教育の状況を把握し、学校で授業が主体的、計画的、継続的に行われるように支援する目的で管内高校 8 校を対象に郵送アンケートを実施し、返送があった高校へ訪問し、実際に教育を担当している先生と教育の場での生徒の反応、学校内全体の取り組み状況等を聞く機会とした。

〔アンケート結果と訪問結果〕

表2のとおりである。

アンケートの結果、HIV/AIDS 教育の状況と課題、保健所への要望等について把握でき、今後の保健所の役割が明確にできた。学校内で HIV/AIDS 授業は保健体育・家庭科等で7校中6校が実施されていた。保健所への要望は、『情報提供』が一番多かった。その後、このアンケート調査を機会に5校を訪問し、要望の多かった最新情報、現在の日本の HIV/AIDS や性感染症の現状や教育の重要性を伝え、必要時、パンフレットや教材を提供した。
〔まとめ〕

アンケートと学校訪問を通じて学校現場と保健所の連携が出来つつある。

学校訪問をすることで、各学校はそれぞれの課題を抱えており、なかなか HIV/AIDS だけに力を入れるわけにはいかないなど実情を訴えられることもあった。また、私立高校連合から生活指導担当教諭対象の講義の依頼、数か所の学校から教育教材の提供や情報提供依頼、授業の組み立てについての相談など反響があ

り、保健所の学校訪問が、授業を継続していく力になったと思える。

今年も昨年に引き続き、2 回目の学校訪問をし、最新情報を提供している。その中で昨年初めて養護教諭が HIV/AIDS 教育を実施した学校では、『養護教諭が実施したことは身近でその後の相談等にも繋がっている、学生の反応が良かった』と他教師から評価されていた。また、授業後、学生へアンケートを実施し、授業評価をし、学校内の教育のステップアップを図っていた。

3. おわりに

関西大学では、学生ボランティアのキャンペーン活動が、先輩から後輩へと引き継がれ、継続した活動として定着している。保健所は、学生のピア・リーダーとしての自主活動を尊重し、今後も継続、発展していけるよう支援していく予定である。また、学校との連携を深め、ピア・エデュケーション活動や地域での HIV/AIDS 啓発活動、さらに卒業後のボランティア活動など、機会を設けて学生たちのピア・リーダーとしての活動を広げられるような支援を継続していきたいと考えている。

今後も、学校との連携を通じて、学校が学校教育の中で『HIV/AIDS、性の健康について』主体的に継続して取り組めるように支援していきたい。

表2 アンケート結果と訪問結果

	返送あり	学校訪問	授業での教育実施あり	困っていること	保健所への要望
公立5校	4校	3校	3校	○授業時間の確保 ○生徒に身近な問題と認識してもらえない	○最新情報提供 ○教材・資料の提供 ○保健所職員の講師としての協力
私立3校	3校	2校	3校		